

製品名: HIPK1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12031**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	133kDa

抗原情報

遺伝子名	HIPK1 KIAA0630 MYAK NBAK2
別名	
遺伝子 ID	204851.0
SwissProt ID	Q86Z02
免疫原	ヒトタンパク質由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 290~370

背景

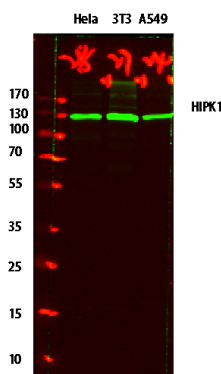
ホメオドメイン相互作用タンパク質キナーゼ 1 (HIPK1) ホモサピエンス この遺伝子によってコードされるタンパク質は、Ser/Thr ファミリーのタンパク質キナーゼおよび HIPK サブファミリーに属する。ホメオドメイン転写因子をリン酸化しますが、ホメオドメイ

ン転写因子のコリプレッサーとしても機能する可能性があります。選択的スプライシングにより、4つの異なるアイソフォームをコードする4つの転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2008年7月]触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。機能: ホメオドメイン転写因子のコリプレッサーとして機能する可能性があります。ストレスに応答して DAXX をリン酸化して、その核から細胞質への移行を媒介します。悪性扁平上皮腫瘍の形成に関与している可能性があります。PTM: 自己リン酸化。JNK1 によってリン酸化され活性化される。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。CMGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。HIPK サブファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。細胞内局在: 主に核内。サブユニット: Nkx1-2 および Nkx2-5 と相互作用する (類似性による)。DAXX および TP53 と相互作用する。組織特異性: 普遍的に発現し、骨格筋と心臓で最も高発現する。乳がん細胞株で過剰発現する。

研究分野

-

画像データ



さまざまな溶解液のウェスタンブロット分析、HIPK1 ウサギポリクローナル抗体は 1:1000 に希釈され、4°で一晩処理され、二次抗体は 1:10000 に希釈され、37°で1時間処理されました。